

キーワード：六次産業化、商品開発、地域食品、農産物、きのこ、特用林産物、

研究・地域連携活動の背景・目的

JA あいら、第一工大、霧島市の3者による包括連携協定(2016年3月24日に締結)に基づき、「地域の魅力を新商品開発でアピールする」ことを目的に、さまざまな新商品開発のプランニング、ディレクション、プロモーション活動をおこなっている。

期待される効果などアピールポイント

高大連携協定締結の国分中央高校、隼人工業高校とも連携し、市民、メディアを巻き込んだプロモーション。霧島ガストロノミー推進協議会(副会長)として幅広いセクターとの連携が可能。共同開発した商品は林野庁コンテスト大賞受賞など。「霧島さん家のグラノーラ」(2016)、「Kirishima Tea Join 森の三姉妹シリーズ」(2018)。

研究・地域連携活動の概要紹介

【地域連携に基づく協働開発】

霧島市、JA あいらとの包括連携協定(2016)、国分中央高校、隼人工業高校との高大連携協定(2016)、霧島市の産学官金労言でつくる霧島ガストロノミー推進協議会への参加(副会長・2017)などの知的、人的ネットワークを活用して、商品開発、プロモーションなどを展開。地方創生の要として大学の機能を強化している。

開発にあたっては、実習講義である「六次産業化特論・実習」「食品加工実習」「地域食品論」などでPBL(Project Based Learning)による実習で「大学ならではの開発体制」も整えている。

【全国コンテストで受賞多数】

上記の体制によって開発された「霧島さん家のグラノーラ」(2016)は、林野庁「森のめぐみコンテスト2016」大賞、第3回JAグループ六次化商品コンテスト優秀賞、2018年、JA・鹿児島県商工会推奨品販路開拓事業第1号認定。「Kirishima Tea Jpin 森の三姉妹シリーズ」は、林野庁「森のめぐみコンテスト2018」大賞受賞。

【マスコミに大きく取り上げられる】

開発活動は、公共性の高い開発体制と周到的なニュース価値創造戦略によって、南日本新聞、KST 鹿児島テレビ、MBC 南日本放送など地元マスコミで大きく報道されている。また、教員は、TBS 全国ネット「この差って何ですか？」できのこの機能性を解説するなどマスコミにも多く露出。



図1 霧島さん家のグラノーラ

県内1の霧島産原木シイタケと九州産大麦を配合した新グラノーラ製品。レシピ開発等を担当。



図2 Kirishima Tea Join